



教育功勞で瑞宝双光章を受章

鈴木保さん



PROFILE

鈴木 たもつ (新野東)
昭和31年より、教員として県内10校の小中学校に勤務。
昭和49年から5年間、静岡県教育委員会に勤務。
平成5年、浜岡東小学校の校長を最後に退職。

栄えある瑞宝双光章を受章

長年にわたり小中学校の教員を務めた鈴木保さんに対する瑞宝双光章の伝達式が8月7日、市役所で執り行われた。教育功勞での同章は、我が国の学校教育の振興に貢献し、特に功績が顕著であると認められた人に対して国から贈られる。鈴木さんは「自分なりに努力してきたという自負はありますが、まさかこのような章をいただけるとは夢にも思っていませんでした。家族全員で喜びましたよ。身に余る光榮です」と喜びを語った。

教員人生で得たもの

鈴木さんは、38年間の教員人生で、さまざまな個性をもった子どもに対し、平等かつ温かい心で接することをモットーに教育を実践してきたと話す。特に印象に残っているのは、昭和62年に団長として「海外教育事情視察」に参加したことだという。これは1カ月間かけ、オーストラリア・スイス・ベルギー・フランス・カナダを25府県の教員と視察研修をするというもの、「各国の教育現場をつぶさ

に見て、比較しながら日本の教育について考える機会を得たことは、とても有益でした。現在でもその人たちとの交流が続いています。この経験は私の宝物です」と目を細める。

いま伝えたいこと

現在の学校教育では、グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっている。鈴木さんは、現在教育に従事する教員らに対し「ぜひ、児童生徒の『克己心』を育ててほしいですね。人生は失敗の連続。その時にどう対応するかが重要だと思います。教員の仕事は大変な時もありますが、負けずに頑張ってください」とエールを送る。続けて「今回受章できたのは、共に頑張った先生方のおかげです。教育目標を達成するためには、保護者や地域の人、そして同僚と心を一つにする必要があります。教育を一人で実践することは困難ですからね」と感謝する鈴木さん。「この栄誉を心の糧にして余生を楽しみたいですね」と今後の抱負を話す。